

3. 「生活都市」としての川崎市

(1) 地域振興と連動した人材育成と雇用のマッチングの推進

■ 産業人材の育成と活用

経済雇用情勢の悪化や労働関係法令制度の制定・改正等、雇用労働環境は大きく変動しています。

2008(平成 20)年秋の世界金融危機の影響による景気の低迷に伴い、離職を余儀なくされる労働者が増大しており、失業率、有効求人倍率とも依然厳しい状況にあります。一方、有効求人倍率が低水準で推移する状況下においても、福祉分野等では恒常的な人材不足が続く等、雇用のミスマッチが発生しています。

また、少子・高齢化の進展に伴い、生産年齢人口が減少する中で、高い生産性を保ち活力ある地域経済を維持していくためには、多様な人材を地域経済に活かすしくみの構築が求められています。

このような中で川崎市の取組として、厚生労働省から「地域雇用創造推進事業」の採択を受け、川崎市地域雇用創造推進協議会と連携して産業人材の育成・就職支援が行われています。

これ以外にも、川崎市におけるものづくりの魅力若年層へ引き継ぎ、川崎の地域産業を発展させるためにインターンシップ推進事業や、企業等退職者の人材活用を支援する取組として「達人倶楽部」の活動などが行われています。

また、市内には、全国初の心身障害者多数雇用モデル工場となった日本理化学工業(株)等が立地しており、先進的な産業人材の育成が図られています。

○ 産業人材育成事業

福祉産業の振興と福祉サービスの向上を目指し、人材の育成と雇用の拡大を図りながら市域産業界の活性化を図るため、厚生労働省の地域雇用創造推進事業を推進しています。本事業は川崎商工会議所が、市内の工業団体及び福祉団体を構成員とした「川崎市地域雇用創造推進協議会」の事務局としての役割を果たしています。

[図表 3-3-1] 産業人材育成の講習会



○ 日本理化学工業(株)

日本理化学工業(株)は、人体に害がなく、飛散しにくい炭酸カルシウムを主原料とするダストレスチョークを国内で初めて開発し、国内トップシェアを誇る企業であり、中小企業庁の元気なモノ作り中小企業 300 社にも選ばれています。近年では、北海道の水産工場で大量に廃棄されるホタテ貝殻のチョークの原料化に挑戦し、北海道立工業試験場とともにホタテ貝殻を使ったダストレスチョークを開発しました。同商品は廃棄物減量化への貢献から北海道認定リサイクル商品の認定を受けるとともにグリーン購入法に適合する商品となっています。

また、同社は 1975(昭和 50)年に全国初の心身障害者多数雇用モデル工場を川崎市内に開設し、以後障害者雇用を推進し、現在では、従業員の 7 割以上を知的障害者が占めています。また、障害者が持つ能力で仕事ができるように作業方法を工夫、改善しており、その取組は厚生労働大臣表彰や企業フィランソロピー大賞社会共生賞を受賞するなど、社会から高く評価されています。

■ 就業の支援

川崎市では、就業支援の取組として、川崎市就業支援室「キャリアサポートかわさき」を設置し、無料職業紹介、就職準備セミナー、若年者のキャリアカウンセリング、企業合同就職説明会・面接会等を実施しています。さらに、2010(平成 22)年からは生活相談から就職までの総合相談窓口を開設しています。

また、川崎市と川崎市地域雇用創造推進協議会との連携により、地域雇用創造推進事業が実

施されています。さらに、2010(平成 22)年 7 月からは川崎市と N P O 法人が運営する「かわさき若者サポートステーション」との連携により、若年者の職業的自立に向けた支援や、地域ポータルサイト運営事業者との協働による就業支援ポータルサイト「J O B - L かわさき」などを開設し、求人情報など就業に関する情報提供が行われています。

○ 就業支援実績 (2009(平成 21)年度)

「労働相談」

- ・ 雇用労働相談 本庁舎及び中原区役所の常設窓口で実施。相談件数 369 件
- ・ 街頭労働相談会 川崎地下街アゼリアで年 2 回 4 日間、新百合ヶ丘駅前年 1 回 2 日間、神奈川県かながわ労働センター川崎支所と共催により開催。相談件数 417 件
- ・ 特別労働相談会 神奈川県かながわ労働センター川崎支所で年 6 回 6 日間、同労働センターと共催により開催。相談件数 181 件

「無料職業紹介」

- ・ 年 96 日間実施 利用者数 1,002 名 就職者数 180 名

「国の施策の活用」

- ・ ふるさと雇用再生事業 雇用創出数 23 人
- ・ 緊急雇用創出事業 雇用創出数 433 人
- ・ 定額給付金事務 雇用創出数 164 人

「地域雇用創造推進事業」

- ・ 事業参加者 235 名 就職者数 174 名

「市や市の出資法人等」

- ・ 雇用創出数 230 名

「企業合同就職説明会」

- ・ 年 2 回開催 参加者数 968 名 参加企業数 95 社

「緊急雇用・労働相談窓口」

- ・ 来訪者数 386 名

「若年者就業支援事業」

- ・ 年 96 日間実施 利用者数 429 名

[図表 3-3-2] 若年者のキャリアカウンセリング



[図表 3-3-3] 企業合同就職説明会



■ 勤労者の福祉の充実

失業率が高水準で推移する等、厳しい社会経済状況の中、企業の業績低迷による雇用調整や賃金抑制の実施、また、雇用形態の多様化による所得格差の拡大等、勤労者を取り巻く環境は

依然として厳しい状況が続いています。

川崎市が主体となり、勤労者の生活を支える制度として、勤労者生活資金貸付制度、勤労者福祉共済、住宅相談事業等が実施されています。

■ 技術・技能の振興奨励

中小製造業が数多く立地している川崎市では、技能教育が重要であり、その充実を図るため、川崎市では後継者の育成や市民啓発のための取組を実施しています。また、43 職種 65 団体 20,000 人で組織される技能職団体連絡協議会に対する活動支援も行われています。

川崎市では、極めて優れた技術・技能職者を「かわさきマイスター」として認定しており、2010(平成 22)年度までに 62 人がかわさきマイスターとして認定されています。

また、かわさきマイスターの持つ卓越した技能の普及啓発及び承継、すばらしい技術・技能を活かしたものづくり事業の検討も行なわれています。具体的には、教育現場や企業との連携を強化し、子供たちや若者に対する実技披露や技術指導、市民向け講習会等、技能功労者表彰等の実施、情報発信の強化としてインターネットを活用したホームページ等での P R やマイスターの技能に関する動画配信などがあります。

[図表 3-3-4] かわさきマイスター一覧

	氏 名	職 種	認定 年度	区		氏 名	職 種	認定 年度	区
1	石渡 弘信	手描友禅	9 年度	高津区	30	堺 昭二	旋盤工	15 年度	高津区
2	鎌上 義則	精密測定		高津区	31	富沢 博	めっき工		川崎区
3	佐々木 淑子	美容師		川崎区	32	原田 茂男	精密測定工具仕上工	16 年度	幸区
4	佐藤 武	石工・石積み		川崎区	33	浅水屋 甫	広告看板製作		多摩区
5	中村 量貢	建築板金	10 年度	川崎区	34	畑 幸男	食肉加工士	17 年度	中原区
6	石井 一夫	刃物研ぎ鋸目立て		多摩区	35	磯野 紀子	印章彫刻士		高津区
7	内海 正次	寝具技能士		多摩区	36	流石 栄基	印刷技能士	18 年度	川崎区
8	都倉 正明	フラワー装飾		宮前区	37	竹内 三郎	円筒研削技能士		幸区
9	備前 幸雄	試作多能工	11 年度	東京都	38	石塚よし子	洋裁技能士	19 年度	中原区
10	山城 薫	重量とび		川崎区	39	板垣 龍一	アルミニウム表面処理		中原区
11	大橋 明夫	プレス順送金型設計		川崎区	40	小池 忠雄	精密プラスチック金型製作	20 年度	川崎区
12	只木 角太郎	洋服仕立て		幸区	41	鈴木 貞吉	難切削特殊加工		麻生区
13	永井 哲夫	尺八制管師	12 年度	高津区	42	吉田 良雄	製靴師	21 年度	川崎区
14	中村 光男	小型汎用旋盤作業		中原区	43	飯嶋 義弘	時計技能士		高津区
15	鍵屋 清作	金属ヘラ絞り		川崎区	44	落合 康孝	プリント配線基板製造	22 年度	川崎区
16	熊谷 隆	プラント溶接		大和市	45	野浦 惣一	ものづくり多能工		多摩区
17	小林 誠一	調理師	13 年度	多摩区	46	井上 衛	造園士	23 年度	幸区
18	中沖 得三	仕上げ組立		高津区	47	仲亀 誠市	洋菓子士		川崎区
19	萩野間 和夫	製缶・溶接		宮前区	48	平賀 正明	生産システムの設計・製作	24 年度	多摩区
20	石川 精三郎	製缶士		川崎区	49	浅谷 理明	洋菓子士		幸区
21	今井 忠雄	特殊ガラス容器製作	14 年度	麻生区	50	榎本 かつ子	美容師	25 年度	川崎区
22	佐藤 榮子	洋裁(婦人服)		高津区	51	久保田 宗孝	デザイン彫金士		宮前区
23	関戸 秀美	神社寺院銅板屋根工事		多摩区	52	田中 司好	食品サンプル	26 年度	川崎区
24	若林 近男	表具師		幸区	53	吉田 義一	農業(花卉生産)		高津区
25	岡部 勝夫	精密板金	15 年度	多摩区	54	出井 明	椅子製造業	27 年度	幸区
26	栗田 佐穂子	洋裁・介護服		多摩区	55	伊藤 直義	機械設計・製作		麻生区
27	小林 伸光	和服洗い張り		川崎区	56	鈴木 忠夫	パイプ曲げ加工	28 年度	川崎区
28	前原 昭	木型工		川崎区	57	横溝 春雄	製菓技能士		高津区
29	三上 峰緒	美容師		多摩区	58	吉永 恵一	クリーニング		川崎区

(注) 逝去者等を除く

(出所) 川崎市

[図表 3-3-5] かわさきマイスターによる実技指導



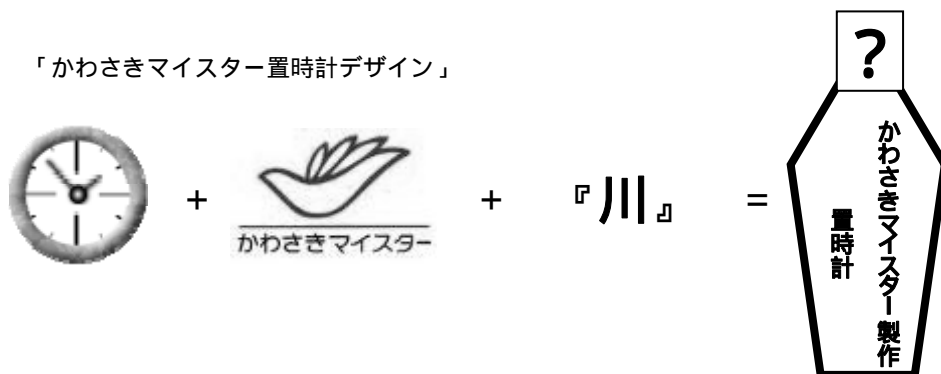
ものづくりの楽しさ、素晴らしさを伝えたい！～かわさきマイスター「ものづくりプロジェクト」～

市民と技能職者の交流施設である川崎市生活文化会館（愛称：てくのかわさき）には市内の職人の方々から、以前使用していた大工道具や写真機など様々な愛用品が寄贈されています。その中に昭和20年代に製作された高さ2m程度の大きな置時計がありますが、老朽化しており、時は止まったままです。

この時計に新たな命を吹き込み、市民の方々にものを作る感動や喜びを伝えるため、川崎市最高峰の技術・技能職者集団である「かわさきマイスター」が立ち上がりました。平均年齢67歳、40年以上一つの職種に従事してきた達人が卓越した技を集結して、時計を生まれ変わらせる「ものづくりプロジェクト」が現在進行しています。デザインから設計・製作まで全ての工程をかわさきマイスター自身で行い、かわさきマイスターならではの時計を製作するものです。金型設計製作、時計技能士、金属ヘラ絞り、広告看板製作、印刷技能士、デザイン彫金士など市内随一の「匠」11名によりプロジェクトチームが結成され、かわさきマイスターのシンボルマークの上に文字盤が乗り、その下には川崎の「川」をモチーフにした、高さ2m以上となる新たなデザインの時計の製作に取り組んでいます。

マイスター制度は全国各地にあります。このような取組は全国初です。「かわさきマイスター置時計」は素晴らしい製品になること間違いありません。皆様、完成するのを楽しみにお待ち下さい！！

「かわさきマイスター置時計デザイン」



(2) 地域特性に応じた安全・安心な流通・サービス機能の形成

■ 活力ある商業の推進

市内には、ラゾーナ川崎プラザ(2006(平成 18)年)、コストコ(2007(平成 19)年)、島忠ホームズ(2008(平成 20)年)等、近年、工場跡地に大型商業施設が相次いで立地しています。特に、ＪＲ川崎駅西口の旧東芝堀川町工場跡地において、2006(平成 18)年 9 月に開業した複合商業施設・ラゾーナ川崎プラザは、ＪＲ川崎駅に直結している利便性もあり、多くの来場者を集めており、広域的な商業拠点となっています。

そうした中で、川崎市では、商業振興事業の指針として 2008(平成 20)年度に「川崎市商業振興ビジョン」を策定し、同ビジョンに基づく

リーディングプロジェクトであるエリアプロデュース事業の実施や、区役所とともに子育てや高齢者対応等商店街と連携した地域のまちづくり推進事業に取り組むとともに、商店街エコ化プロジェクト等、共同施設設置の支援、空き店舗を活用した創業の支援と創業予定者向けのセミナーを実施し、また、商店街が地域住民等と連携して実施するイベントを支援しています。

『川崎市商業振興ビジョン』(2009(平成 21)年 3 月策定)

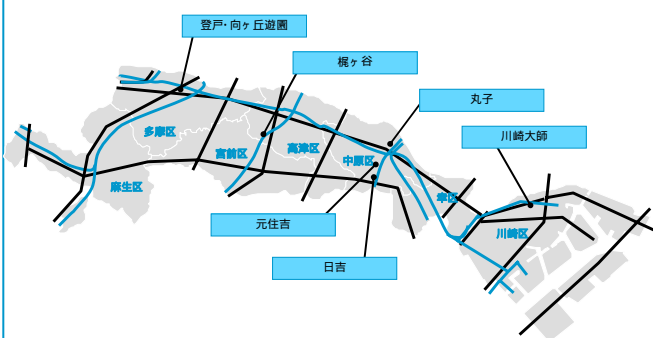
2001(平成 13)年度に「地域商業振興ビジョン」を策定してから 7 年が経過し、社会経済情勢や商業を取り巻く環境が大きく変化してきている状況を踏まえ、新たなビジョンを策定しました。

商店街の組織力や個店の強化、商業ネットワークの構築、及び付加価値の高い商業への転換など 6 つの商業振興の方向性を定めています。

また、施策の基本的な視点として、これまでの商店街支援策に加えて、新たに、「商業集積エリアの活性化」「地域課題解決による新たな商店街活性化」及び「魅力あふれる個店の創出」の 3 点を位置づけています。

○ エリアプロデュース事業 (2010(平成 22)年度実施状況)

商業集積エリアの抱える課題の解決にあたって、専門家(エリアプロデューサー)の派遣を通じて、商業者自らの発意や創意工夫などを支援することにより、商業集積エリアを活性化する取組を推進しています。



エリア	取り組み
川崎大師	・「願い事が叶う大師(まち)」をテーマに町全体の賑わいの創出を実現する組織を設立。
丸子	・子育てママや地域の高齢者の生活を支える場の形成促進や、商店街強化のためのプロジェクト組織を設立。
梶ヶ谷	・民間交番の設置等、安全安心なまちづくり。 ・特徴的なホームページの刷新やエルカジ祭りの強化。
登戸・向ヶ丘遊園	・「商店街・商店のファン作り～集客力の向上～」をテーマに、エリア全体の活性化に向けた担い手作りと情報発信。
日吉	・域内交流を活発化しながら、地域ブランドを開発し、パブリシティを誘発。
元住吉	・デジタルサイネージの活用、メルマガとの連携によるクロスメディア情報発信、ママさん記者など、発信体制の充実。

(出所) 川崎市

○商店街エコ化プロジェクト

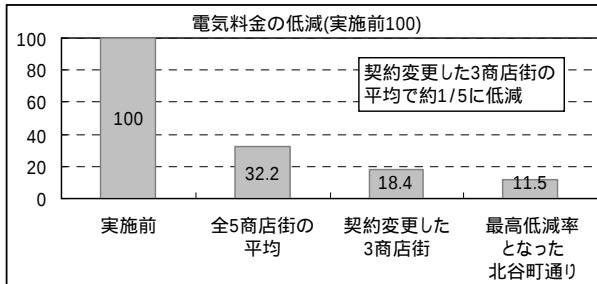
商店街街路灯のLED化を促進し、街路灯に係る消費電力を大幅削減することで、CO₂削減、電気料金削減をめざし、エコの取組による商店街のイメージアップ及び商業活性化を図ります。

【2009(平成21)年度に設置】【2010(平成22)年度に設置】

- 法政通り商店街振興組合
- 北谷町通り商店会
- 登戸東通り商店会
- 西生田商盛會
- 鹿島田商店会

- 川崎大師仲見世通會
- 京町通り光榮會
- 川崎駅前仲見世通商店街振興組合
- 南武通り商店會
- 中原駅南口商店會
- 川崎銀柳街商業協同組合

登戸東通り商店街で設置したLED街路灯



(出所)川崎市

[図表 3-3-6] 賑わう川崎市内の商店街



[図表 3-3-7] 川崎市内商店街の主なイベント(平成22年現在)

No	区	イベント名称	主催者
1	川崎区	いいじゃんかわさき	いいじゃんかわさき実行委員会
2	川崎区	アジアンフェスタ	かわさきアジアンフェスタ実行委員会
3	川崎区	かわさきハロウィン	かわさきハロウィンプロジェクト
4	川崎区	かわさき阿波おどり	川崎駅前商店街連合会
5	川崎区	かわさき楽大師	かわさき楽大師プロジェクト実行委員会
6	幸区	日吉まつり	日吉商店街連合会
7	中原区	新城夜店市	新城商店街連合会
8	中原区	フライマルクト	モトスミ・ブレイメン通り商店街振興組合
9	中原区	オズフェスタ	モトスミ・オズ通り商店街振興組合
10	中原区	中原名物花見市	花見市実行委員会
11	中原区	まるこ花見市	まるこ花見市実行委員会
12	高津区	溝口駅前キラデッキルミネーション	溝口駅前キラデッキル実行委員会
13	宮前区	さき沼商店会サマーフェスティバル	さき沼商店会
14	宮前区	歳末ふれあいまつり	蔵敷商店会
15	多摩区	中野島音楽祭	中野島音楽祭実行委員会
16	多摩区	のぼりとわくわく(ナイトハザード)	登戸東通り商店会
17	多摩区	民家園通り商店会 夏まつり	民家園通り商店会
18	麻生区	禅寺丸柿まつり	柿生中央商店会

(出所)川崎市

■地域特性に応じた商業の振興

川崎駅周辺にはシネコンや音楽ホール等魅力ある集客施設が立地しており、西口の大規模商業施設と共存した、地域全体の集客性・回遊性の向上が課題になっています。

さらに、市内での消費拡大に取り組む「Buy

かわさきキャンペーン」の一環として、市内の優れた名産品を掘り起こし、広く市内外に紹介・PRするとともに、川崎市のイメージアップを図るため、名産品フェア「Buyかわさきフェスティバル」などが開催されています。

[図表 3-3-8] Buyかわさきフェスティバルin たかつ



[図表 3-3-9] Buyかわさきキャンペーンキャラクター

「ばいぞーくん」



■消費者行政センター

消費者行政については、2009(平成 21)年 9 月に消費者庁が設立され国の消費者行政が一元化するとともに、併せて施行された消費者安全法において地方公共団体における消費生活センターの設置、相談、斡旋、情報収集等の実施が位置づけられました。

川崎市においても、消費者行政を総合的・体系的に推進するため、2011(平成 23)年度から 3 年間の中期計画である「川崎市消費者行政推進計画」を策定するとともに、国とも連携しながら

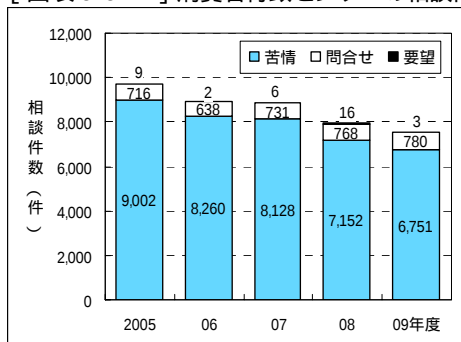
ら消費者行政の機能強化が進められています。

川崎市の消費者行政の担い手である川崎市消費者行政センターでは、消費者庁、国民生活センター等と連携を保ちつつ、消費者への情報提供、苦情処理等の消費者行政を行っています。川崎市消費者行政センターに寄せられる苦情等の相談の件数は、2007 年以降減少傾向にあるものの、2009(平成 21)年度で 7,534 件のばっています。

[図表 3-3-10] 消費者行政センター



[図表 3-3-11] 消費者行政センターの相談件数の推移



(出所)川崎市「平成 21 年度消費生活相談年報」 資料編 p.68-

■計量

計量は、社会生活や産業活動に大きな関わりをもち、生活から物流・消費に至るあらゆる分野で重要な役割を果たしています。

川崎市においても、川崎市計量検査所によって、計量の安全・安心を確保するための各種検査の実施や、計量器を使用している事業所に対する計量管理の推進、計量知識の普及向上が図られています。また、計量に関する啓発活動として、小学生を対象とした夏休み計量教室も開

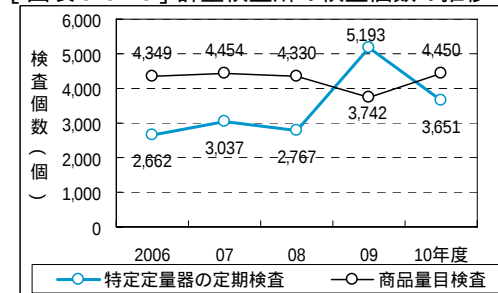
催されています。

計量検査所が実施する検査には、商店やスーパー、工場、病院、学校等で取引や証明に使用しているはかりの定期検査や商品量目・表記方法及びはかりの使用状態の立入検査、電気・ガス・水道メーター等生活に関連する有効期間のある計量器の立入検査等があります。2010(平成 22)年度には、定期検査 3,651 件、商品量目検査 4,450 件の検査が行われています。

[図表 3-3-12] 夏休み計量教室



[図表 3-3-13] 計量検査所の検査個数の推移



(出所)川崎市 資料編 p.68-

■安全安心な食料品等の安定供給

川崎市には、川崎市中央卸売市場北部市場と川崎市地方卸売市場南部市場の2か所の卸売市場があります。

川崎市の卸売市場では、直近で花卉の取扱数量、取扱金額は増加しているものの、青果や水産物等は減少傾向にあり、全体として取扱数量、金額とも全体的に減少傾向にあります。特に水産物は2005(平成17)年から2009(平成21)年の4年間で取扱金額が3割減少しています。

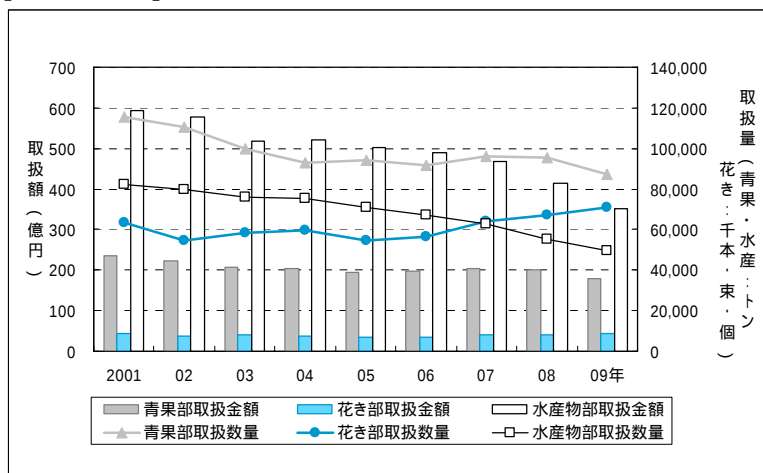
卸売市場については、流通の急激な変化と市場外取引の拡大等に伴い、市場間競争の激化と市場間格差が拡大進行しています。市場経由率は、青果では1989(平成元)年の約82%から、2006(平成18)年には約65%まで低下してきて

います。また、家庭における生鮮食料品の購入比率及び購入金額も低下してきています。

こうした中で、大きく変化する生鮮食料品の流通や、市民の食の安全・安心への意識の高まり等の環境変化に対応する上で、生産者と消費者側から求められる市場の役割と機能は増大し、多様化してきています。

川崎市では、効率的な市場運営体制の構築と市場機能の向上を図り、適正な整備を実現するため、「北部市場中長期プラン基本計画」を策定し、北部市場の今後の方向性を明確にするとともに、市場機能の活性化に向けた取組を進めています。

[図表 3-3-14] 川崎市卸売市場の取扱額及び数量の推移



(注) 果実の数量及び金額にはジュース、缶詰分を含む。

(出所) 川崎市 資料編 p. 68 -

[図表 3-3-15] 南部市場「いちばいち」



[図表 3-3-16] 北部市場まつり



■ コミュニティビジネスの振興

コミュニティビジネスとは、地域の課題を地域住民が主体的に、ビジネスの手法を用いて解決する取組のことです。

川崎市では、多摩区・麻生区を中心とする大学・企業・地域の方々とともに「たま市民生活・文化産業起こしフォーラム」が2003(平成15)年1月に結成され、川崎北西部における産業起こしなどについて議論を重ねるとともに、先進的なコミュニティビジネスやサービス産業の創出に向けて関係者の連携促進が図られてきました。

また、2008(平成20)年度から専修大学と川崎市が連携し「KS(川崎・専修)コミュニティ

ィ・ビジネス・アカデミー」講座を実施し、コミュニティビジネスの担い手人材の育成と、起業家との交流を図られています。

川崎市は、コミュニティビジネスに対する支援として「コミュニティビジネス相談窓口」を開設し、社会起業家の活動情報を提供しているほか、川崎市内のコミュニティビジネスを紹介する事例集の作成・配布、地域で活躍される方々の交流とネットワークづくりを目的に「川崎コミュニティビジネスフォーラム」の開催、商店街の空き店舗を活用したコミュニティ施設の設置に対する助成、コミュニティビジネス支援融資制度等を行っています。

○ KS(川崎・専修)コミュニティ・ビジネス・アカデミー修了者の活動状況

およそ150名のKS(川崎・専修)コミュニティ・ビジネス・アカデミー修了者の活動状況は、落語会等を通じた地域の活性化や医療に関するNPO法人の設立、コミュニティビジネス振興にかかるNPO法人の設立、就職、その他市民活動に参加するなど多方面での活動を開始しています。

[図表 3-3-17] KS コミュニティ・ビジネス・アカデミー
受講生現場視察の様子



[図表 3-3-18] 空き店舗の活用事例
(長沢コミュニティ広場)



[図表 3-3-19] 川崎コミュニティビジネスフォーラム



(3) 食と緑を豊かにする都市農業の振興と都市農地の活用推進

川崎市では 2005(平成 17)年に、産業としての農産物の供給を主な目的としてきた「農業」とともに、市民にうるおいと安らぎをもたらす多面的な機能、公益的な役割を含めて農業・農地を「農」と表現した「かわさき『農』の新生プラン」を策定し、都市農業の振興に取り組んでいます。

また、2008(平成 20)年 4 月に、旧フルーツパークと緑化センターの農業技術支援機能を統合し、農業技術支援センターを設置しています。農業技術支援センターでは、環境保全型農業等を推進するための試験研究や、市民の農業に対する理解と参加を促進するための事業等を実施しています。

『かわさき「農」の新生プラン』(2005(平成 17)年 3 月策定)

本市では、都市化の圧力に押され農地、農家の減少が続く一方、市民から家庭菜園をやってみたい、農業に参加したいなどの要望、期待が寄せられており、農業・農地が新鮮な農産物を供給するばかりでなく、緑の空間、環境保全機能、レクリエーション機能、休養・学習の機能など多面的な機能を発揮しています。

本市では、経済活動だけを意味しがちな言葉としての「農業」と区別し、食の供給や地域社会活動にとって重要な役割を果たしている農家を含め、多面的な機能を発揮する農業・農地を「農」と表現し、市民生活の質の向上をめざす「かわさき「農」の新生プラン」を 2005(平成 17)年 3 月に策定しました。

本市では、本プランに基づき環境保全型農業や地産地消の推進など市民とつくる農業の振興を図るとともに、市民の農体験、「農」への参加・参画を進め、市内農地の保全・活用を図っています。

■ 農業経営の基盤づくり

川崎市では、農業機械の導入や温室の新設など、生産環境の改善や経営の合理化を図る生産者に対して引き続き助成を行い、農業経営の安定に向けた支援を実施しています。また、農業技術支援センターでは、農業技術支援の拠点施

設として、生産者のニーズに基づき、土壌分析、優良品種の比較試験や減農薬栽培試験研究に取り組むとともに、必要な施設の整備を実施しています。

[図表 3-3-20] 農業技術支援センター



[図表 3-3-21] 農業技術支援センターによる講習会



■ 地産地消の推進

川崎市には、市内産農産物「かわさきそだち」がありますが、知名度が低いという課題があります。川崎市とＪＡセレサ川崎では、広く市民（消費者）の方に知ってもらうため、「かわさき地産地消推進協議会」を2005(平成17)年6月に設置し、各種ＰＲツールの作成・配布、Ｂｕｙかわさきフェスティバル等の様々なイベントへの参加による農産物の直売、市立小学校等の学校給食献立への市内産農産物の供給と生産者による川崎農業の紹介を行い、地産地消や食育の推進を図っています。

市内産農産物の供給と、安定した農業経営を実現するため、直売団体育成の支援及び大型農産物直売所「セレサモス」並びに川崎市北部市場、南部市場への出荷奨励が行なわれています。セレサモスでの販売が望めることで黒川地区、岡上地区等の農業振興地域で農地の遊休化が解消されました。

また、(株)チッタエンタテインメントとＪＡが連携して、ラ チッタデッラでの市内産農産物の直売を試行的に実施しています。

[図表 3-3-22] 大型農産物直売所セレサモス売上等の状況

年度	売上高	来場者数	販売数	1日平均 来場者数	地場産割合
2008(平成20)年度	373,404 千円	252,633 人	1,904,262 点	874 人	75.7%
2009(平成21)年度	501,922 千円	305,281 人	2,490,337 点	988 人	75.7%
対前年比(2008→2009 年)	134.4%	120.8%	130.7%	113.0%	100.0%

(出所) 川崎市

[図表 3-3-23] セレサモス（外観）



[図表 3-3-24] セレサモスの内部の様子



■ 農業の担い手の育成

川崎市が主体となり、農業の担い手に対し、経営感覚を養うための各種研修会を開催しています。また、農業者が農業経営改善計画を作成することを推進し、計画の認定(認定農業者)を行うとともに、農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想に基づき、認定農業者等に対して農地の利用集積等も行われています。

農業フォーラム、料理教室及びファーマーズクラブ事業等、住民を対象とした行事も数多く行われており、地域住民の意見を取り入れた経営ができる自主性と創造性に富んだ女性農業

者や農業青年等の育成が図られています。

農業経営体の労働力を補完する援農ボランティアの育成及び活動なども行われています。

[図表 3-3-25] ファーマーズクラブ



■ 農業生産基盤の整備

川崎市では、農業振興地域整備計画管理等業務を着実にを行い、農業生産基盤の整備開発計画等の進行管理と農用地利用計画に基づく農用地区域の適正管理に努めています。

■ 都市農地の保全と活用

川崎市では、グリーン・ツーリズム計画の改訂作業(2010(平成 22)年度)を行い、農業公園、交流促進型地域農業活性化事業を推進しています。

また、市街化区域農地の保全のため、生産緑地地区の定期的な指定と市民防災農地の登録を進めており 477 箇所、75.9ha の農地が登録されています(2011(平成 23)年 1 月現在)。

■ 市民が農に親しむしくみづくり

川崎市が設置する市民農園は以前より希望が多く、土地所有者の協力により市内 7 箇所の農園が継続維持されています。また、農業者の指導で農作業を体験する体験型農園を 7 箇所、一定条件で農地を貸し付ける市民ファーマーミング農園を 4 箇所、農業者が開設しています。「農」を知る機会の提供としては、花と緑に親しむとともに花や緑に囲まれた快適なまちづくりを推進する「花と緑の市民フェア」、及び市民に「畜産」を身近に感じてもらい畜産物の消費、普及を推進する「川崎市畜産まつり」などが開催されています。

農地の休遊化や違反転用地の実態把握を行い認定農業者等への利用集積を推進するとともに、違反転用地については県との連携により所有者に対する管理指導を実施しています。

[図表 3-3-26] 市民防災農地



[図表 3-3-27] 花と緑の市民フェア



(4) 地域資源の活用による魅力の発信

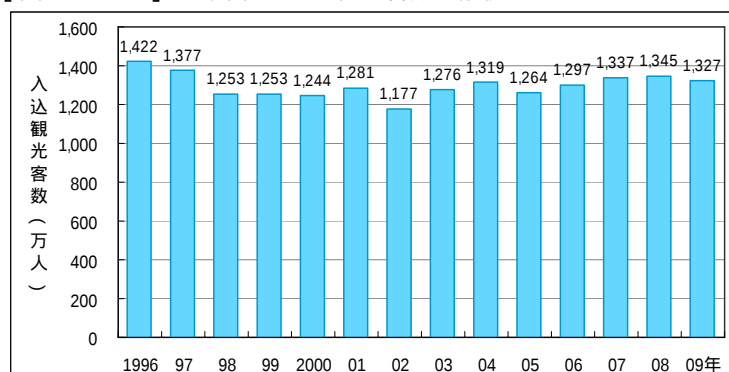
我が国では、2006(平成 18)年に観光立国推進基本法が制定され、2008(平成 20)年には観光庁が開設されるなど、観光が重要な政策課題の一つとして注目されています。

市内においても 2005(平成 17)年に「かわさき観光振興プラン」が策定され、各地で観光振興が進められています。

『かわさき観光振興プラン』(2005(平成 17)年 6 月策定)

川崎の新たな観光の振興が、本市のイメージアップに貢献し、個性と魅力が輝くまちとして多くの人々が訪れ、賑やかさと活気のあるまちに再生するための役割を担うものとなるよう、2005(平成 17)年度に観光振興プランを策定しました。住む人が「かわさき」というまちに誇りと地域愛を持ち、ホスピタリティ(おもてなしの心)をもって、「かわさき」の良さを広く紹介し、訪れる人がそれを楽しみ、人々が集い・交わる観光のまちづくりを目指すことを基本理念としています。

[図表 3-3-28] 川崎市内の入込観光客数の推移



(出所)川崎市「川崎市入込観光客数調査」

[図表 3-3-29] 主な施設の入込観光客数の推移

観光客数(人)	2007年	2008年	2009年
合計	13,367,741	13,449,365	13,266,436
東芝科学館	126,396	149,656	138,766
日本民家園	108,854	117,506	109,881
アグリパーク	54,833	57,033	54,639
夢見ヶ崎動物公園	353,700	258,500	263,300
潘秀園	101,423	100,775	93,163
緑化センター	69,800	70,300	70,300
市民ミュージアム	145,367	202,436	138,910
青少年科学館	232,286	224,529	248,871
川崎マリエン	22,394	108,950	214,945
川崎平和館	56,043	50,295	55,330
岡本太郎美術館	71,700	73,356	74,602
味の素川崎工場	21,947	26,709	31,340
若宮八幡宮			57,600
川崎市アートセンター			54,499
非公開施設	11,997,219	12,009,320	11,660,290

川崎市内では、工場の集積という強みを活かした産業観光について、民間事業者による「産業観光ツアー」「工場夜景バスツアー」「工場夜景屋形船クルーズ」が実施され、関係団体の連携による「産業観光検定」「産業観光ガイド養成講座」が実施されています。

2011(平成 23)年 2 月には、川崎市内において「全国工場夜景サミット」が開催され、その中で室蘭市、川崎市、四日市市、北九州市により、この 4 つのエリアを「日本四大工場夜景」とする共同宣言が行われました。

産業観光以外にも、川崎市には文化芸術、自然等の豊かな地域資源が存在します。例えば、多摩丘陵の一角に位置する市内最大の緑地である生田緑地には、自然の中に岡本太郎美術館や日本民家園、青少年科学館等の文化芸術施設が立地しています。さらに、2011(平成 23)年 9

月には、長年多摩区に住み「ドラえもん」など多くの名作を生み出したまんが家、藤子・F・不二雄氏の作品を展示・公開する文化施設「藤子・F・不二雄ミュージアム」が生田緑地内に開館する予定となっています。

また、2010(平成 22)年 10 月の羽田空港の再拡張・国際化に対応した観光振興の取組として、外国語による観光ガイドブックの作成及び観光ホームページの開設、ビジット・ジャパン・キャンペーン関連事業が行われており、羽田空港には、2010(平成 22)年 10 月に首都圏 6 県市共同運営による羽田空港 6 県市観光情報センターが設置されました。

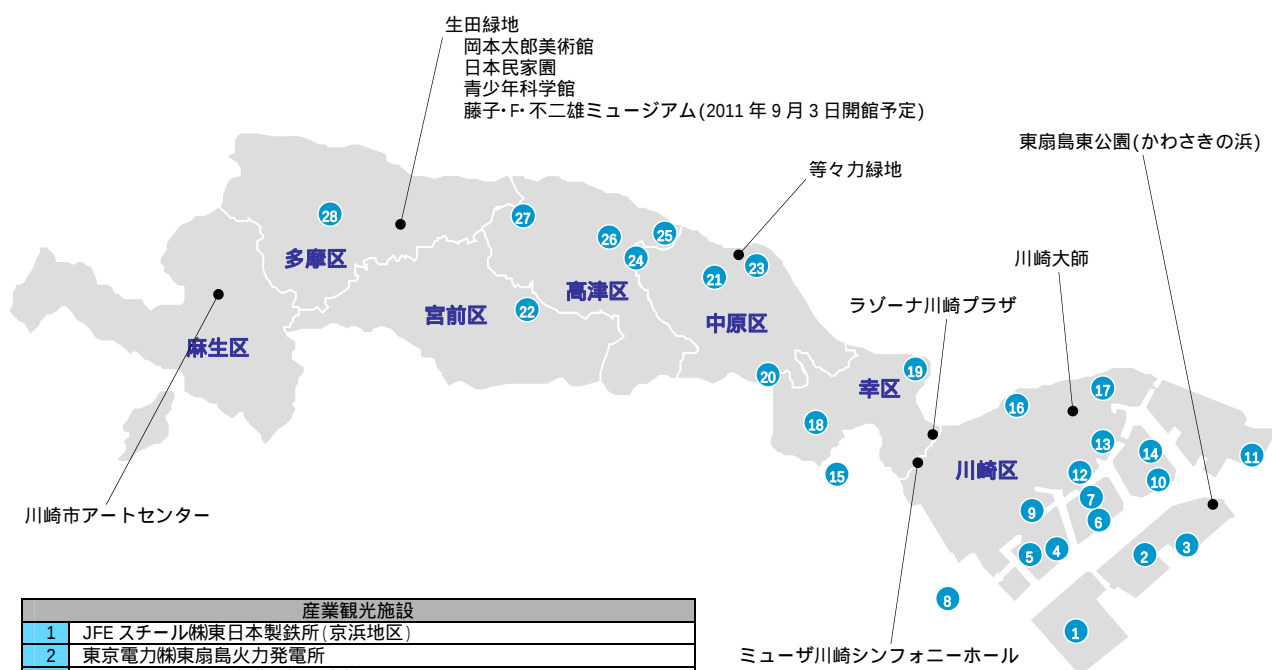
[図表 3-3-30] かわさきの工場夜景



[図表 3-3-31] 羽田空港 6 県市観光情報センター



[図表 3-3-32] 川崎市の産業観光施設及び主な地域資源



産業観光施設	
1	JFE スチール(株)東日本製鉄所(京浜地区)
2	東京電力(株)東扇島火力発電所
3	川崎マリエン(川崎市港湾振興会館)
4	ベトリファインテクノロジー(株)
5	昭和電工(株)川崎事業所「プラスチックケミカルリサイクル工場」
6	川崎ゼロ・エミッション工業団地協同組合
7	東亜石油(株)京浜製油所水江工場
8	東京ガス(株)環境エネルギー館
9	(株)デイ・シー
10	(株)クレハ環境 かながわ事業所
11	川崎市生活環境学習室
12	特定非営利活動法人 川崎市民石けんプラント
13	大同特殊鋼(株)川崎工場
14	日本ヴォバック(株)川崎事業所
15	東京電力(株)電気の史料館
16	味の素(株)川崎事務所
17	東京ガラス工芸研究所
18	慶応義塾大学 新川崎タウンキャンパス 新川崎先端研究教育連携スクエア
19	東芝科学館
20	(株)朝日東京プリンテック 川崎工場
21	富士通(株)川崎工場
22	電車とバスの博物館
23	川崎市等々力工業会
24	神奈川科学技術アカデミー
25	クノール食品株式会社
26	(株)ミットヨ 沼田記念館、ミットヨ博物館
27	(株)日経東京製作センター 川崎工場
28	明治大学平和教育登戸研究所資料館

(注) 白抜き数字は、産業観光施設
(出所) 川崎産業観光振興協議会等より作成

○産業観光

「川崎産業観光ツアー実施状況」(平成22年度)

	実施日	特徴	参加者数
第1弾	5月27日	川崎の工場景観を船で見学、川崎大師新能	79
第2弾	6月24日	海芝浦駅から工場景観の観賞、デイ・シイ(ツアー初登場)	45
第3弾	7月20日	アクアライン地下緊急用トンネルの見学、川崎大師風鈴市	47
第4弾	8月26日 8月27日	陸と海からの川崎工場夜景観賞	91
第5弾	9月30日 10月1日	首都高・高速川崎縦貫線建設現場、モトスミ・ブレーメン通り商店街	90
第6弾	10月23日	第49回技能五輪全国大会、満開の生田緑地ばら苑の見学	33
第7弾	11月25日	羽田空港新国際ターミナルの見学、川崎競輪場でのバンク体験や選手とふれあい	43
第8弾	12月17日	よみうりランドジュエルミネーションの観賞、明治大学平和教育登戸研究所資料館の見学	37
第9弾	1月28日	JFEスチール(株)東日本製鉄所の見学、東京ガス(株)環境エネルギー館の見学	47
第10弾	2月23日	東亜石油(株)京浜製油所水江工場の見学、全国工場夜景サミット関連工場ツアー	45
第11弾	3月29日	慶應義塾大学新川崎(K2)タウンキャンパスの見学、ANA原動機センター・訓練センターの見学	震災により中止 (申込者数254名)

「川崎工場夜景屋形船クルーズ」概要

- 日時：毎月第2・第4土曜日(定期運航)
集合時間：18時30分(4~8月) 18時(3月、9月) 17時(10月以降)
- 行程：川崎駅(川崎日航ホテル前)【マイクロバス】→船着場(塩浜)→屋形船乗船(工場夜景を船上から鑑賞)
→船着場(塩浜)【マイクロバス】→川崎駅(送迎含め約3時間)
- 募集人員：各日45名(最少催行人員20名)
- 主催：長八海運(株)
- 企画・協力：川崎市、川崎市観光協会連合会、川崎商工会議所、京浜臨海部観光推進協議会、川崎産業観光振興協議会

「川崎工場夜景バスツアー」概要

- 日時：毎月第1・第3金曜日(毎月2回)(7月・8月は毎週金曜日実施)
川崎駅西口ミューザ川崎裏 18時30分集合~21時30分解散
- 行程：川崎の工場夜景スポット数か所を見学 川崎工場夜景ナビゲーターが同行
- 募集人員：各日45名(最少催行人員30名)
- 旅行企画・実施：(株)JTB首都圏
- 企画協力：川崎市、川崎市観光協会連合会、夜景評論家 丸々もとお
- 後援：川崎商工会議所、川崎産業観光振興協議会

「はとバスツアー(話題の川崎工場夜景スポット)」概要

- 日時：毎週土曜日
東京駅丸の内南口 16時20分出発~21時30分終了
- 行程：川崎コリアタウン(夕食/焼肉)
川崎臨港倉庫屋上など川崎の工場夜景スポット数か所を見学
川崎工場夜景ナビゲーターによる解説付
- 募集人員：各日42名(最少催行人員30名)
- 旅行企画・実施：(株)はとバス
- 企画協力：川崎市、川崎市観光協会連合会、夜景評論家 丸々もとお

「産業観光検定試験」申込者数(()内は合格者数)

	第1回 2008(平成20)年	第2回 2009(平成21)年	第3回 2010(平成22)年	第4回 2011(平成23)年
初級	332人(242人)	207人(32人)	188人(57人)	230人
	第1回 2009(平成21)年	第2回 2010(平成22)年	第3回 2011(平成23)年	
上級	121人(5人)	67人(10人)	59人	

震災により延期

観光については、民間主導の観光振興の推進を図るため観光協会の機能強化を目的とし、2009(平成 21)年に観光協会連合会における公募職員採用による体制強化を図ったほか、観光協会連合会の会員増加に向けた取組が実施されています。

また、競輪場施設については、2008(平成

20)年 3 月に富士見周辺地区整備基本計画における既存バンクを活用した現位置でコンパクト化する方針等が決定され、川崎市が 2010(平成 22)年度に市民や事業関係者の意見を踏まえた川崎競輪場再整備基本計画を策定し、再整備に向けた取組を進めています。

○かわさきバスカー(川崎区)

「バスカー」とは路上演奏者のことで、ロンドン地下鉄構内で、街を歩く人たちに向けて演奏する路上パフォーマンスです。

かわさき TMO では、川崎駅周辺地区を「歩いて楽しい街、行ってみたい街、誰にも優しい街」にするための事業の一つとしてバスカーの実現を目指しています

「かわさきバスカー」は、2008(平成 20)年 3 月に銀座街で川崎銀座街バスカーとしてスタートし、2009(平成 21)年度から川崎駅東口にある各商店街に協力を働きかけ、エリアを拡大してきています。演奏者には「かわさきバスカー認定証」を発行し、アーティストのスケジュール調整を行うことで各商店街での演奏の環境を整えています。



○カワサキハロウィン(川崎区)

カワサキハロウィンは、1997 年から開始し昨年は第 14 回目を迎えた毎年 10 月末に川崎駅東口商業エリア一帯を会場として開催される国内最大級のハロウィンイベントです。約 3 千人が参加するハロウィン・パレードや、仮装コンテスト、映画祭、音楽祭等様々なイベントが開催されています。



○天体戦士サンレッドと連携した地域活性化(高津区)

高津区では、溝の口を舞台としたテレビアニメ「天体戦士サンレッド」と連携した様々な区セールス事業を実施しています。

「天体戦士サンレッド」第 1 期のエンディングテーマ曲「鶏タンゴ鍋」の歌詞が「鶏だんご鍋」のレシピになっていることから、サンレッドの舞台にふさわしい「ご当地グルメ」として、溝の口を中心に区内飲食店で鶏だんご鍋を提供しています。また、鶏だんご鍋には区内橘地域の野菜を使うことで地産地消を推進しています。

2010 年(平成 22 年 2 月 19 日～3 月 27 日)に実施されたキャンペーンでは、区内 5 店舗で 11 日間に 1413 食が販売されました。また、キャンペーン参加店舗が実施したスタンプラリーでは応募者に抽選で区内企業(有)美飾ブーベが作ったアニメキャラクターのケーキ飾り人形をプレゼントしたほか、アニメに登場するスポットを掲載した「聖地巡礼マップ」を作成し、配布しました。

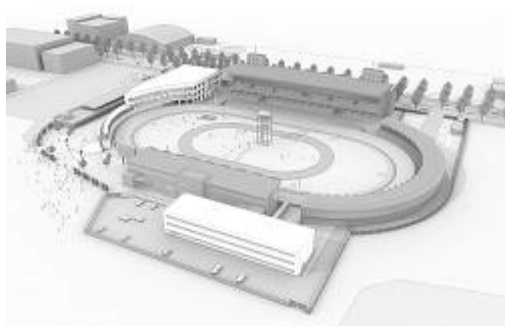


○川崎市等々力工業会(中原区)

川崎市等々力工業会は中原区の等々力緑地で、約 30 社の小企業が集まった製造業の団体です。その一方で、見学の受け入れや 2009 年には常設展示場を設置し、ブログの公開を行うなど、積極的な広報活動を行い、金属、プラスチック、紙などの加工から塗装、電気、建設、内装、自動車整備まで多岐にわたる技術を見ることができます。さらに、長期休暇中に小・中学生を対象として「ものづくり教室」等も実施するなど、参加型のイベント等も実施しています。また映画やドラマのロケ地にもなっている昭和の風景を楽しむこともできます。



[図表 3-3-33] 川崎競輪場再整備イメージ



○かわさきのガラス振興(全区)

川崎市には、1981(昭和 56)年に開設された日本で最初のガラス工芸総合教育機関「東京ガラス工芸研究所」をはじめ、数多くのガラス製造企業、工房、工芸作家が集まっています。

特に、「東京ガラス工芸研究所」は、設立以来 1000 人以上の卒業生を世に送り出しています。また、同研究所ではサッカー W 杯で活躍した川崎市ゆかりの選手に送られた川崎市スポーツ特別賞の記念品の制作も手がけました。



[図表 3-3-34] かわさきガラス WORLD2011



[図表 3-3-35] かわさきガラスガイドマップ

